

タイトル	2021年度 学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教育心理専攻 小論文問題
評価のポイント	<p>小学生の学習に関するアンケート調査を素材とした問題である。2つの図からメタ認知の違いによる学習方法、学習する理由の違いについて紹介されている。以下の点を重視し、総合的な思考力、表現力の面から評価を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方法、学習する理由それぞれについてメタ認知の違いによる図の説明がある。 ・学習意欲・学習方法に対するアドバイスが、図からわかることから示されている。 ・求められていない内容（データからは読み取れないことについての私見等）を述べていないか。 ・原稿用紙の使い方、誤字脱字、文のねじれなど表現形式面で問題がないか。 <p>【出典】ベネッセ教育総合研究所 小学校高学年の学びに関する調査2019 2020年</p> <p>小論文解答例</p> <p>図1より、メタ認知の低群よりも高群のほうが、「色ペンで書いたり線を引いたりして覚える」、「決まった時間や曜日に勉強する」、「語呂合わせやダジャレなどを使って覚える」、「友達と勉強を教え合う」と回答する割合が高く、勉強するにあたりこうした工夫をすること、すなわち学習方法の工夫が、メタ認知の高さと関連していることが示唆されている。また、メタ認知高群では学習意欲も高く、「新しいことを知ることができてうれしいから」、「将来いい高校や大学に入りたいから」、「友だちに負けたくないから」のいずれも肯定的な回答の割合が高くなっている。以上のことから、メタ認知と学習上の工夫、そして学習意欲はともに正の関連があることが分かる。</p> <p>一方、「テストの結果がよかったらごほうびをもらおう」（図1）や、「先生や親に叱られたくないから」（図2）の2項目は、メタ認知の高低群間での差が他項目に比較して小さいものの、メタ認知低群のほうが回答の割合は高く、こうした自発的な学習動機の欠如が、メタ認知の低さと関連していることが示唆されている。</p> <p>このように、学習方法の工夫や学習意欲はメタ認知と関連していることから、学習方法や学習意欲のアドバイスには、メタ認知能力を高める働きかけや活動を提案することも一つであろう。例えば、「自分の得意なこと、出来ているところ」や「自分の苦手なこと、出来ないところ」を思いっただけ挙げさせ、そのうち勉強と結びつくものがあるかを振り返らせる。日記を書くことも、自己を客観的に捉える訓練に役立つ。出来事や自分の考えに加えて、相手や他者からみてどうだったかも記すことで、より客観的な視点が養えるだろう。また、他者との話し合いを多く持って、自己を振り返り、新たな気づきを得ることも有効であろう。あるいは、「新しいことを知ることができてうれしい」と感じられることを自分なりに探してみることもいいかもしれない。(796字)</p>